



▲毎朝校門前の横断歩道に立ち、地域の人たちと一緒に児童にあいさつをする豊原小学校の新谷校長（右）



▲月始めの1週間、学校の教諭が校門前に立ってあいさつする城内小学校



▲蒲池小学校では、月2～4回、保護者が校門前に立ってあいさつ

市民が柳川を愛し柳川の良さを伝えるまちへ おもてなし座談会



あいさつや清掃は、おもてなしの基本

市長 皆さんこんにちは。本日はお忙しい中、「おもてなし座談会」にお集りいただきありがとうございます。

2年前に長崎県の壱岐市で九州市長会があったとき、道ばたで初めて出会う子どもたちが、元気よく「こんにちは」とあいさつしてくれました。心が温まり、とても印象深い出来事でした。

この対談が「おもてなしの心日本一」運動の本格的な第一歩と思っています。皆さんから「おもてなし」について、さまざまなご意見をお聞かせください。

生田 川下りコース沿いを、正光乳児保育園の園児たちの散歩コースにしていて、園児は通りかかるドンコ舟の乗船客に手を振っています。乗船客の皆さんからも、手を振り返してくださるので、園児たちも喜んでいきます。

園児を預かる者としては、普段からあいさつのできる子どもに育てることができないと、相手への「おもてなし」ができる子どもにならないと思います。

山田 私が旅行客を案内する添乗員をしていたとき、国内外のいろいろな観光地に行っても感じていたことは、観光地がきれいでない、人は二度三度と訪れるリピーターにはならないものだということでした。柳川も観光地ですから、まずはきれいなまち

であってほしいと願い、清掃から始めることにしました。

上妻 自分たちのまちは自分たちできれいにするのが基本ですね。

私の住む六合校区には、国の重要文化財となっている古文書がある鷹尾神社があります。参拝客も多く、境内も広いので、清掃に時間がかかります。そこで行政区を班に分け、各班ごとに分担して毎週掃除をするようにしました。すると、境内がとてもきれいになり、地域の人だけでなく、参拝する人にも喜んでもらっています。

また青少年育成市民会議の中で、六合小学校の児童が、ごみをポイ捨てしない「ポイ捨て禁止条例」を作ったかどうかという意見発表をしたのです。その後、全児童が、通学するときにごみを拾ってくるようになりました。誰かが考えれば、みんなが動く。これからはいかにそういった教育をしていくかが、今後の「おもてなしの心」につながっていくのではないかと思います。

新谷 豊原小学校では毎朝校門で、児童を笑顔で迎えています。学校の正門に立って、児童だけでな

▼12月7日、市青少年育成市民会議城内校区市民会議は、地域の清掃を実施。住民や柳城中学校、柳川高校生など約300人が参加



▼毎年、水落ちに合わせて行われる「堀と道のクリーンアップ大作戦」。多くの市民が参加する



初めて訪れたまちで、そこに住む人の温かいあいさつや思いがけない親切などの何気ない「おもてなし」が、訪れた人に安らぎを与え、そのまちの良さや魅力を強く印象づけることとなります。

訪問が一度で終わるのか、二度、三度と交流が深まるのか、その分かれ道は「おもてなしの心」ではないでしょうか。

そこで、市民を挙げた「おもてなしの心日本一」のまちづくりを目指す金子市長と、各分野で活躍する市民5人による「おもてなし座談会」を、昨年12月12日に開き、「おもてなし」について考えました。

次のある柳川のすばらしさを



2013年度
柳川青年会議所理事長
としお
龍 俊夫さん (細工町)
柳川青年会議所理事長として、小学生が柳川を深く学ぶための講座「ヤナガワ シビックアカデミー」の開催や、よかもんまつりでの「やながわロックエナジー」を企画。
龍川魚商店専務取締役

若い人を味方につけて 市民運動として盛り上げて



豊原小学校校長
しんがい ひろゆき
新谷 裕幸さん (蒲船津)
全国 web カウンセリング協議会ネットいじめ対応アドバイザー。船の模型をラジコンで操作する九州スケールポート倶楽部の事務局長として、柳川夏の水まつり「スイ！水！スイ！」を盛り上げる

住みよいまちづくりと 観光地としての整備を



行政区長代表委員協議会
会長
こうづま かつよし
上妻 勝吉さん (鷹ノ尾)
平成 19年まで、市議会議員を務める。現在は、行政区長の他、保護司、市青少年育成市民会議副会長、市社会福祉協議会副会長、市防犯協会評議員など多数の役職を兼任

まずは、まちをきれいに できる人ができることから 実行



道守ふくおか会議
柳川ネットワーク代表
みよこ
山田 三代子さん (佃町)
長年、旅行業界で海外の添乗員として世界を駆け巡る。現在は県内5か所の文化サークルで「旅の英会話」を教える他、水の郷文化サークルの英会話講師でもある

住んでいる人が満足して 暮らすことが大事



正光乳児保育園園長
いくた ゆうこ
生田 裕子さん (細工町)
地域の中で子どもや子育てを支援する主任児童委員や園内で開設する子育て支援センター「ピコクラブ」のセンター長、また、家庭教育の面で、市の施策に助言を行う社会教育委員も務める



市長
金子 健次

対談者

く、中高生にも声をかけていると、やがて向こうからあいさつを返してくるようになります。そして3月になると、「お世話になりました。今日で最後です」と、ちゃんとあいさつをするんですよ。そんな人たちをずっと育てていくことが大切だと実感しています。

豊原小学校の児童の合言葉は、「はい・おは・あり」です。「はい」は返事、「おは」はあいさつ、「あり」は感謝。この3つの言葉を「おもてなし」に結び付けられたらいいなと思っています。

生田 私に住んでいる地域にも、あるお店の前を通る学生が、朝と夕方に、

柳川には、すばらしいものがたくさんある。柳川を学べばもっと柳川を好きになる。

龍 私は学生時代から9年間柳川を離れていました。離れてみると、柳川のすばらしさに気付くんですよ。

そのすばらしさを次世代の子どもたちに必ずつなげていかなければならないと、柳川青年会議所では「好きですこのまち Pass the Baton」というスローガンを掲げて、まちづくり、人づくりに取り組んでいます。

生田 私は28年前、ほかの土地から柳川に来ましたが、夫をはじめ柳川の人たちが柳川のことをすごく誇りに思っている、すごく好きなんだなと思ったのが第一印象でした。

でも、私の子どもは県外にいますが、

お店の人にあいさつをしていくんです。「おはようございます」「お疲れさま」と。顔も名前も知らないのに、お店の人と学生があいさつを交わしています。柳川も捨てたもんじやないと思っ毎目見えています。

核家族化が進み、おじいちゃんやおばあちゃんと一緒に生活していない子どもが増えています。お年寄りも保育園に遊びに来て、園児と触れ合うことができないかなと思っています。

そうすることで、いろんな人と自然に会話ができる子どもが育つのではないのでしょうか。

柳川に友達を連れてこない。「柳川は知らない」からと言うんです。観光客はたくさん来ているのに、どうしてそう思うのか疑問です。

山田 若い人にも、もっと生まれ育ったふるさとに目を向けてもらえれば、たくさん気が付くことがあると思いますよ。

柳川を知ることが「おもてなし」の始まりではないでしょうか。

龍 今の柳川にあるものは、すばらしいものばかりです。

柳川に住む人たちの日常の生活が幸せで満たされていれば、それが「おもてなし」につながるのではないかと考えています。

素のまち、地のまち柳川、先祖が大切にしてきたものをしっかりと残していくことが、「おもてなし」につながっていくのではないのでしょうか。

生田 市長が目指す「おもてなしの心日本一」のキャッチフレーズ「住んでよし訪れてよしのまち柳川」はいい

住みよいまちづくり、そして若者を味方にしながらい「おもてなし」

上妻 「おもてなし」には、住みよいまちづくりが欠かせません。「安全安心まちづくり運動」が始まってから10年になりますが、犯罪は51%減少しています。これからも、この運動は継続してほしいですね。

新谷 「おもてなし」は、今自分ができることをするというのが基本です。学校での取り組みが市民運動に広がるために、観光客も参加できる「おもてなし川柳大会」の開催や「おもてなしフェスティバル」の開設、「○○あいさつ通り」の看板を立てることなどを考えました。友達などとネット上で交流を深めることができるフェイスブックは、お金がかからず情報伝達が早く、情報の共有率も高いのでお勧めです。

龍 我々のような若い世代でよく話すのが「市長の顔はえびす顔。市長はマスコットキャラクターのようだね」と。武雄市のような勢いのある市は、市長

がマスコットキャラクターになっっているんですよ。それが顔になり、アイコン「おもてなし」なんです。

山田 「道守通信」という機関紙があった、柳川の道守活動が市長の笑顔と一緒に紹介されました。この機関紙が11月の道守九州大会で参加者に配られ、皆さんから「市長さんの笑顔がいいね」と話題になり、まさに九州一円で市長の笑顔が有名になりました。

市長 この笑顔は、親に感謝したいと思っっています(笑)。これからもこの笑顔で、「おもてなし」をやっしていきたいと思っっています。

新谷 これからは、若者のエネルギーを使うことが大切です。若者に向って、何か「おもてなしの心」を耕すことをしないと、この運動も続かないと思います。若者を巻き込み、味方にするような「おもてなしの心日本一」運動をしていきましょう。

「おもてなしの心日本一」実現に向けて

市は、「おもてなしの心日本一」事業を進めるにあたり、次の4つの柱を掲げています。

- ①まちや掘割を美しく保つ
- ②あいさつ運動、親切運動を市民に定着させる
- ③「もう一度柳川に行きたい」というリピーター、「柳川ファン」を増やす
- ④地域に密着した観光事業を推進し、これらの取り組みの結果として、10年後に観光客を150万人にする

この具体的取り組みとして、昨年11月、市役所内に石橋副市長を会長とする「おもてなしの心日本一プロジェクトチーム」を設置しました。

また3月までに、市内各種団体に構成する「おもてなし市民会議（仮称）」を立ち上げ、市民挙げての「おもてなしの心」を推進する母体をつくります。

また、「おもてなしシンポジウム」の開催や、「柳川雛祭り・さげもんめぐり」にあわせた「おもてなしキャンペーン」も開催し、気運を盛り上げていきます。

昨年10月からは、国の補助事業を活用し、今柳川にある「おもてなし」を再評価し、みがき上げて、さらに外へ向け情報発信することで柳川ファンづくりを進める「水郷柳川おもてなし文化創造事業」も実施しています。

市職員については、「おもてなし」についての職員研修会の開催や、2年前から行っている、庁舎周りの清掃活動も引き続き行っています。

「おもてなしの心日本一」事業は、まだ始まったばかり。

市民の皆さんと一緒にこの運動を進め、盛り上げていきましょう。

<問い合わせ>

市観光課（☎77・8564）

柳川雛祭り・さげもんめぐり 20周年記念

おもてなしシンポジウム



ひな壇にさげもんを飾り「おもてなし」

今年は、「柳川雛祭り・さげもんめぐり」が始まって20周年。柳川雛祭り実行委員会では、専門家や雛祭りに関わってきた市民などと一緒に、昔から伝わる伝統文化とおもてなし文化について考えるシンポジウムを開催します。入場無料

■日時 1月19日（日）、午後2時～

■会場 水の郷ホール

■内容 九州大学で民俗学が専門の坂元一光教授が「さげもんに託す地域の明日～伝統をつくる・めぐる・つなぐ」と題した記念講演と、雛祭りに関わってきた市民などによるパネルディスカッション

問い合わせは、同委員会（☎74・0891）まで。



坂元一光教授

<プロフィール> 1954年鹿児島県生まれ。九州大学大学院人間環境学研究院教授。専門は文化人類学と民俗学



◀おととしの5月に行われた九州市長会では、ポッポ幼稚園の園児が真勝寺（新町）を訪問した市長夫人を歓迎した。市民一人一人の飾らない「おもてなし」が、旅の感動を与える

思いやりを持って「おもてなし」

上妻 市長は2期目の就任当初から「おもてなし」を掲げられていました。この運動を進めるにあたり、観光客をもっと大事にしてほしいです。

川下りコース沿いにはまだ昔の排水溝が残っています。きちんと整備すれば、柳川の印象がもっと良くなります。また、「おもてなしセンター」みたいなものを作ったらどうでしょうか。バスも入れるようにして、そこで柳川の歴史や文化を紹介する。併せて、柳川地域の物産などを販売すれば、柳川の活性化にもつながると思います。

市長 ハード面も大事ですが、「おもてなし」には「思いやり」がなければならぬと思います。

観光客からの要望や苦情の中で、「沖端に行ったけれども、トイレが分らなかった」というのがありました。トイレまでの誘導をしていないということに、「思いやり」がなかったと。新谷 「思いやり」について、エピソードがあります。

豊原小学校は冬、野外体験活動で九重のスキー場に行くのですが、海苔養殖業者のお孫さんが、「山に住む人に海苔を持って行きたい」と海苔を届けたことがありました。おじいちゃん「山に住む人に柳川の海苔のおいしさを届けたら」という助言があったようですが、後日、先方からお礼状をいた

だきました。このお礼状は児童にとって宝物になったろうし、助言を実行してくれた孫も、おじいちゃんにとって宝物なんだろうなと思いました。

山田 「おもてなし」をしたいけれど、何をしたらいいのか分からないという人もいるかも知れません。例えば、お客さまがお見えになる前は、掃除をしたりお茶菓子を用意したりしますよね。そんな気持ちで、身近な「おもてなし」になるのではないのでしょうか。自分がしてもらいたいと思うことを、できる人ができることからあげると、自然に「おもてなし」につながると思います。

龍 我々若い世代も、自信と誇りを持って子どもたちにしつかり柳川のよさを伝えていけば、柳川がキラキラ光るまちになってくるのではないのでしょうか。**生田** 「おもてなし」という言葉が流行語になっていきます。上滑りだけの運動にならないよう、市民一人一人の気運を盛り上げてほしいですね。

市長 皆さんの話を聞いて、自信を持ったと同時に、あらためて頑張らねばという気持ちになりました。

「おもてなし」といつたら柳川」と言われるように、気持ちの部分でもまちを活性化し、「住んでよし訪れてよし」のまちづくりをしていきますので、今後ともご協力をお願いします。

「おもてなしの心日本一」事業構想のイメージ

市民
(事業所・団体)

市民を挙げて「おもてなしの心日本一」を実現

おもてなし市民会議 (仮称)

柳川市
(プロジェクトチーム)



▲市役所内に発足した「おもてなしの心日本一プロジェクトチーム」

▶「水郷柳川おもてなし文化創造事業」の委託を受けている、ローカル&デザイン柳川物語研究所のスタッフの皆さん。沖端に事務所を構える

